

<神戸港 平和の碑>除幕式

日時：2008年7月21日（月、休日）午後0時
会場：神戸市中央区海岸通3-1-1 KCCビル前

プログラム

- ・あいさつ 調査する会代表 安井三吉
- ・経過報告 調査する会事務局長 飛田雄一
- ・来賓紹介
- ・除幕
- ・あいさつ 神戸華僑総会名誉会長 林同春

午後1時より徒歩5分の雅苑酒家でパーティを開きます。
参加費500円です。お申し込みをよろしくお願いします。



引き続き300万円を目標に募金活動を行っています。ご協力をよろしくお願いします。

送金先：郵便振替口座<00920-0-150870 神戸港調査する会>

神戸港における戦時下朝鮮人・中国人強制連行を調査する会
代表 安井三吉

〒657-0064 神戸市灘区山田町3-1-1 神戸学生青年センター内
TEL 078-851-2760 FAX 078-821-5878
ホームページ <http://ksyc.jp/kobepo/> e-mail hida@ksyc.jp

戦時下朝鮮人・中国人・連合国軍捕虜の被動員数、死亡者の概要について

1) 朝鮮人

「朝鮮人労務者に関する調査(厚生省名簿)」兵庫県分には、神戸市内の15企業の名簿がある。そのうち神戸港5企業関係として、三菱重工業神戸造船所(被連行者数1984名、内死亡12名、以下同じ)、神戸船舶荷役(148名、1名)、川崎重工業製鉄所葺合工場(1398名、25名)、川崎重工業製鉄所兵庫工場(220名、6名)、神戸製鋼所本社工場(412名、3名)合計被連行者数4162名、死亡者47名となる。他に厚生省名簿にはないが川崎重工業艦船工場については社史に1600名の記述がある。

2) 中国人

『外務省報告書』によると連行は7次にわたって、総計996人が連行された(内1名は神戸到着前に死亡)。その後、函館港(北海道)、敦賀港(福井県)、七尾港(石川県)に計330人が転出し残った人のうち16名が死亡した。

3) 連合国軍捕虜

終戦時に神戸市内に残されていた連合国軍捕虜は545人。全体の実数は不明。死亡者については、以下のとおりで、総計190名となっている。

<神戸分所> 死亡者合計134名 / 内訳: 米6、英118、蘭2、豪8

(死亡した118名の英國兵捕虜の多くは「りすぽん丸」で移送された捕虜: 福林氏コメント)

<川崎分所> 死亡者合計51名 / 内訳: 英14、蘭19、豪18

<脇浜分所> 死亡者合計5名 / 内訳: 米4(全員「めるぼるん丸」で台湾から移送された捕虜)、蘭1)

神戸港における戦時下朝鮮人・中国人強制連行を調査する会の歩み(抄)

1999年

10月 調査する会結成

2000年

02月 ニュース1号発行

07月 フィールドワーク「いかりツアーワーク」

08月 中国現地調査

08月 韓国現地調査

2001年

02月 田中宏講演会「外務省報告書」

08月 中国現地調査

09月 フィールドワーク「いかりツアーワーク」

10月 韓国現地調査

12月 朴球会講演会

2002年

03月 塚崎昌之さん、上澤祥昭さん、講演会

10月 フィールドワーク「いかりツアーワーク」

2003年

2004年

01月 『神戸港強制連行の記録』

(明石書店)発行

02月 ブックレット(副読本)発行

03月 ジョン・レイン手記発行 / 出版記念会来日
内海愛子講演会

07月 ニュース9号発行

2005年

2006年

2007年

2008年

07月 石碑建立

神戸港における戦時下朝鮮人・中国人強制連行を調査する会 / 出版物案内

神戸港における戦時下朝鮮人・中国人強制連行を調査する会編

神戸港強制連行の記録 - 朝鮮人・中国人そして連合軍捕虜 -

2004年1月 / 4500円(本体価格) /

四六判 / 縦組 / 上製 / フチバー / 352 頁 / ISBN 4-7503-1839-6

神戸港における戦時下朝鮮人・中国人強制連行を調査する会編

アジア・太平洋戦争と神戸港 朝鮮人・中国人・連合国軍捕虜

執筆・宮内陽子（調査する会、兵庫県在日外国人教育研究協議会）

2004.2.15、B 4、32頁、定価800円+税、発売・みずのわ出版

ジョン・レイン著：平田典子訳

夏は再びやってくる - 戦時下神戸・元オーストラリア兵捕虜の手記

神戸学生センター出版部 2004年3月 定価1890円(送料調査する旨負担) A5 264頁

復刻版 / 神戸港における中国人強制連行資料

日本港運業界神戸華工管理事務所・神戸船舶荷役株式会社

『昭和二十一年三月 華人労務者就労顛末報告書』

(1999.6.30、神戸・南京をむすぶ会刊、2000円、送料310円)

復刻版 / 神戸の連合軍捕虜関係地図（松本充司さん提供）

A3 4枚分 カラー=コピー= 500円(送料110円)

＜神戸港 平和の碑＞の左右にある先輩の石碑 / モニュメント



神戸港 平和の碑

アジア・太平洋戦争時期、神戸港では労働力不足を補うため、中国人・朝鮮人や連合国軍捕虜が、港湾荷役や造船などで苛酷な労働を強いられ、その過程で多くの人々が犠牲になりました。私たちは、この歴史を心に刻み、アジアの平和と共生を誓って、ここに碑を建てました。

2008年7月21日
神戸港における戦時下朝鮮人・中国人強制連行を調査する会

Kobe Port Peace Monument

In order to make up for labour shortages during World War II, Chinese, Korean, and allied POWs were enforced to work at Kobe Port in such jobs as cargo handling and shipbuilding. The harsh conditions resulted in the sacrifice of many lives. In erecting this monument, we pledge to never forget this tragic history and to work toward to peace and cooperation in Asia.

21 July, 2008

Kobe Port World War II
Korean and Chinese Forced Labour Investigation Group

神戸港 和平之碑

亚洲・太平洋战争期间，为弥补神户港劳动力不足，很多中国人，
朝鲜人和联合国军俘虏被强迫在港湾、码头和造船厂做装卸及造船苦役，
其间牺牲了许多人。为牢记这段历史，永志亚洲和平与共生，我们在此立碑。

二〇〇八年七月二一日
神戸港戦時朝鮮人中国人強制連行調査会

고베항 평화의 비

아시아·태평양전쟁 시, 고베항에서는 노동력 부족을 보충하기 위하여
중국인·조선인이나 연합국군포로에게 항만하역작업이나 선박건조 등의
가혹한 노동을 강요하고, 그 과정에서 많은 사람들이 희생되었습니다.
우리들은 이 역사를 마음에 새기고 아시아의 평화와 공생을
맹세하여 여기에 비석을 세웠습니다.

2008년7월21일

고베항 세계2차대전시 조선인 중국인 강제연행조사회